



プレミアム88への 重要なポイント(穂肥)

適期に適量の穂肥を散布することで、品質と食味向上を両立させ、
“プレミアム88”を目指しましょう!



■穂肥施用時の注意点(生育・地力に応じた施肥量、時期の判断)

穂肥の施用は収量の増大や登熟の向上など、稲の生育後期に重要な作業です。施用時期は基本的に、幼穂の長さで出穂日を予想して判断します。コシヒカリ・滋賀羽二重糯は幼穂長1cm(出穂18日前)、みずかがみ・キヌヒカリ・日本晴は幼穂長1mm(出穂25日前)、が穂肥の施用時期の目安となります。また穂肥の施肥量は葉色と株張りによって判断します。

良食味米生産のためには、穂肥の適正な施用が重要で、多肥施用や実肥は、タンパク含量を増加させ食味低下の要因となることが知られています。一方で、食味を重視するあまり穂肥を極端に減肥し、登熟期に栄養不足となっていることもあり、近年、高温登熟障害による乳白粒や未熟粒の発生など外観品質低下の原因と考えられていますので、生育量に応じた穂肥の適正な施用が重要です。

■高温気象条件下におけるコシヒカリの穂肥について

近年、登熟期間の気温が高く経過することにより、稲の栄養を維持し、白未熟粒による外観品質の低下を防ぐため、葉色が薄い場合は追肥を施用します。

- 追肥の施用時期は、**出穂期から穂ぞろい期**です。
- 追肥の量は10aあたり窒素成分で**1~2kg程度**です。

病害虫発生情報(トビイロウンカによる被害の発生にご注意を!)

海外から飛来する「トビイロウンカ」による被害が全国で多発し、滋賀県でも令和元年、2年と連続で坪枯れ症状の発生が認められました。本年につきましても、すでに発生が確認された府県もありますので、今後の情報等に十分注意し、発生が見受けられたら早急に防除を行いましょ!



水稻カドミウム・リスク対策技術

湛水管理が始まります!

稲への吸収が活発となる出穂前後各3週間は、カドミウムの吸収抑制技術の**湛水管理**期間です。この技術を実施し、カドミウム吸収を抑制しましょう。

湛水管理の状態

OK!

土壌がすべて水面につかっている状態

X

土壌がすべて水面から出ている状態

田面が水面から出ると土壌の酸化が進み、カドミウムは水に溶けやすい状態となり、稲への吸収が高まります。

JAレーク伊吹農産物安全対策協議会